

宮崎国際大学 教育学部ニューズレター

宮崎国際大学教育学部の新たな歴史

学長 山下 恵子



教育学部第一期生がいよいよ卒業を迎えます。宮崎国際大学の歴史に、新たな足跡を刻み、社会へと巣立っていきます。卒業を迎えた皆さん、卒業おめでとうございます。4年間、本当によく頑張ったと思います。勉学や就職が思うように進まず、涙する姿をいくども見ました。それでも持ち前の明るさで27人が努力する姿は、後輩たちに大きなものを残してくれました。同時に、福田学部長を中心としながら、先生方がスクラムを組み、とことん学生と向き合い、その学びを支援したことも、歴史の新しい1ページとなりました。第一期生を見ながら育った、3年生、2年生、1年生は、大いに刺激を受け、先輩たちを憧れの眼差しで見つめていました。在学生もさらに飛躍してくれることと思います。公立小学校教員採用試験の一次試験に15名が合格し、二次試験には8名が現役合格（1名はダブル合格）、宮崎市職員（保育士・幼稚園教諭）に1名、その他、幼稚園等に合格するという快挙は、「伸ばす宮崎国際大学、伸びる宮崎国際大学生」の証です。

さて、教育学部はこれから次なるステージへと歴史を重ねます。グローバル人材育成で23年の実績のある国際教養学部の多数の外国人教員と触れ合う機会があるため、本学の教育学部では国際感覚を常に体験できます。英語に強い教員の養成機関として、本学は今後大きな注目を集めることになるでしょう。教育学部における教員採用試験合格支援プログラムや教科・教職自主ゼミもさらに充実していきます。また、平成30年度からは、障がいのある子どもたちを音楽で支援する「こども音楽療育士」の資格も取得可能となります。

ますますの国際化が進む日本を、そしてこの宮崎を、宮崎国際大学がリードしていく時代の到来です。宮崎国際大学は、世界へ羽ばたく学生を育て、地域に愛され、求められ、信頼される大学を目指していきます。

卒業生の活躍は本学の宝なり。羽ばたけ！教育学部生。

第1期生の卒業を心から祝福します

学生教職支援センター長 中原 邦博



卒業生の皆さんは、1年次から教員・保育士採用試験合格を目標に掲げ、合格のための特別対策講座や保育ゼミ、理数ゼミ等のほか、2年次・3年次の特別対策合宿を経験するなど、他の大学にはないオプションプログラムに挑み続けてきました。そして、様々なハードルを乗り越え、晴れてここに、卒業を迎えることになりました。

公立学校教員採用試験や地方公務員採用試験で内定した人もいれば、幼稚園の内定通知をもらった人もいます。一方で、県や市町村の講師登録をして、講師経験を積みながら教員や公務員採用試験に再チャレンジする人たちもいます。

一人一人道は違っても、大学を巣立ち、厳しい社会の中で生きていくことは同じです。本学で学んだ友との絆を忘れず、時には励ましあい、あるいは相談しあって、人生の荒波もよき友人とともにたくましく乗り越えてください。



平成29年12月16日に宮崎国際大学教育学部第2回栄養会を開催しました。

メニューは7種類の鍋料理。

4年生の有志と東京アカデミーによる教員採用試験に向けた模擬試験等を終えた3年生が参加しました。

目次

| | |
|-----------------------|---|
| 宮崎国際大学教育学部の新たな歴史 | 1 |
| 第一期生の卒業を心から祝福します | 1 |
| 教員採用試験合格者の声 | 2 |
| 公務員試験合格者の声 | 2 |
| 4年間を振り返って | 3 |
| 平成29年度卒業論文発表会を終えて | 3 |
| 教育実習を終えて（小学校） | 4 |
| 教育実習を終えて（幼稚園） | 4 |
| 平成30年度教員採用試験合格支援プログラム | 4 |
| 入試広報部より | 4 |

ハイライト

教育学部第一期生が卒業します。公立学校教員採用試験に延べ8名が現役合格をしました。また、宮崎市職員や幼稚園等への就職が内定しています。

先日教育学部で初めての卒業論文発表会を開催しました。

今号には卒業を迎える4年生の声を多く掲載しています。

教員採用試験合格者の声

仲間とともに

教育学部 4年 菊池 葵
(宮崎北高等学校出身)



私は、小学校の教師になるという、幼い頃からの夢を叶えるべく、宮崎国際大学に一期生として入学しました。入学する前は、「自分以上に教師になりたいと思っている人はいない」と思っていました。しかし、宮崎国際大学教育学部には、同じ志を持った仲間

がたくさんいました。この仲間と出会い、4年間切磋琢磨しながら頑張ってきたことが、教員採用試験合格という結果につながりました。

教員採用試験に向けて、私が決めていたことは、「多くの仲間とともに勉強すること」です。教員採用試験を目指す人たちにとって、「仲間づくり」はとても大切だと思います。宮崎国際大学は、入学時点でこの「仲間づくり」ができる場所です。大学で出会った仲間たちと、二人で、時には大勢で、勉強をしました。新しく知った内容についてお互いにプレゼンテーションをしたり、問題を作って出し合ったり、教育の話題について大勢の仲間たちとただお喋りするだけでも、とても勉強になりました。このような勉強を通して、私は、モチベーションを維持しながら、自分の足りない部分を知り、視野を広げ、一次試験にも二次試験にも立ち向かえる力を付けることができました。

宮崎国際大学で過ごした4年間で、私は、多くの先生・友人たちに出会い、共に学んでいくことで自分に自信を付けることができました。これからも、宮崎国際大学で学んだことを生かし、仲間とともに、切磋琢磨していきたいと思っています。

「常に学び続ける姿勢」と「謙虚な心」をもつ

教育学部 4年 古谷 一馬
(ルーテル学院高等学校出身)



今回合格できた要因を挙げると、大きく2つのことがあります。

1つめは私自身が、「常に学び続ける姿勢をもつ」と決めていたことです。これまでの大学生活を振り返った時に、一つ一つの出来事が全て「学び」であり、自分自身を成長させてくれる大切なものでした。例えば、学友会活動や大学祭、野球部での活動は、一見すると教員採用試験には関係ないように思う人もいるはずですが、そこでの時間を大切に過ごしたことで、仲間と意思疎通を行い、協力することの大切さなどを学ぶことができました。さらに、学友会活動や大学祭などでは、自分たちのことだけではなく、大学事務局とのやり取りも踏まえた計画・実行が必要であることを知り、自分の視野が広がりました。これらは教員を目指す上でも、とても貴重な経験でした。

2つめは「謙虚な心をもつ」ことです。日常生活の中で、様々な人に助言や指摘をしてもらうことがあります。大学に入学したばかりの頃の私は、助言や指摘をなかなか素直に受け入れることができず、どこかで自分の意見が正しいという誤った自尊心が働いていました。しかし、1つめに挙げたように「学び続ける姿勢」をもっていると、少しずつ他者の意見を聞くことができるようになりました。試験勉強でも、先生や仲間の指摘や助言を素直に取り入れ、自分の勉強方法を変化させたことで一次試験合格、二次試験合格という結果につながることができました。「謙虚な心をもつ」ことが自分自身を成長させてくれたのだと思います。

今後とも、「常に学び続ける姿勢」と「謙虚な心」を持ち、邁進していきたいです。

公務員試験合格者の声

仲間とともに学び続けた4年間

教育学部 4年 安藤 智夏
(高鍋高等学校出身)



私が宮崎市の公務員試験を受けようと思ったのは遅く、4年生になってからでした。それでも合格できたのは、毎日大学へ通いながら仲間と支え合い、勉強することができたからだと思います。子どもが大好きな仲間たちとともに学び、語り合い、実習を通して実践を積みました。大学生活は、毎日がとても充実していて学校に行くのが楽しかったです。

私は、教育学部で教育・保育に関する専門的なことを学ぶのはもちろんですが、1・2年生の時には、教養の授業を多く受講していました。宮崎市の公務員試験は一次試験で基礎能力検査があり、教養が大切だったので受講していてよかったです。受験を決意してからは、小学校教員採用試験を受ける仲間たちと励まし合ったり、ともに夢を叶えた後のことを想像し語り合ったりするなど、互いに刺激し合って勉強に取り組みました。

二・三次試験の面接やグループワークについての対策は、大学の先生方にも協力していただき何度も練習しました。そうした毎日の取り組みが自分の自信となり、合格できたのだと思います。来年度からは実際に保育現場に出て働くということで、今は身の引き締まる想いで一杯です。残りの大学生活も、仲間とともに学び続け、高め合いながら過ごしていきたいと思っています。

数え切れないほど沢山の人たちとの出会い

教育学部 4年 橋口 紗央理
(都城西高等学校出身)



この度、宮崎県の教員採用試験に合格することができました。小学生の頃からの夢を叶えることができ、心から嬉しく思っています。

教員採用試験に向けて私は、最後の1年間特に集中して試験勉強に打ち込みました。教員採用試験を終えて思うことは、自分一人だけの力では絶対に合格することができなかったということです。いつも私を支え応援してくれた家族、共に切磋琢磨し毎晩夜中まで一緒に勉強をした友人、週に何度もピアノのレッスンをしてくださった学長先生、面接の練習をしてくださったゼミの先生や大学の仲間、二次試験前ほぼ毎日のように模擬授業や集団討論などの対策をしてくださった数十人もの小学校の先生方…。この1年で数えきれないほど沢山の人たちと出会い、多くの方に励まされ、共に学ぶことができました。教員採用試験の勉強は辛いこともありますが、「必ず受かる」と信じ、自ら動き学んでいくことが大切だと思います。

「合格」ということだけに満足せず、お世話になった方々に恩返しをしていくことのできるよう、教師としてこれからさらに努力をし続けていきたいです。

4年間を振り返って

4年間の学びを生かして教員になる



教育学部4年 角田 純平
(都城泉ヶ丘高等学校出身)

私は大学4年間で、小学校教員になる上で必要なたくさんの力を身につけることができました。

まず1つめは、「企画力と実行力」です。私はアシスタントアドバイザーの一員として、新1年生が大学生活の不安を解消できるようなイベントを考え、実行してきました。新1年生と先輩とが交流する時間を作ることで、大学生活をスタートさせることを支えることができました。

2つめは、「地域に貢献すること」です。地域とともにある学校づくりを行う上で、学校と地域との連携は欠かせないと考えます。ボランティアで地域のお祭りに参加したり、「寺子屋」というイベントで子どもたちに勉強を教えたりしました。地域の一員として、そこで行われている様々な取り組みに参加することで、地域の人々と交流することができました。

3つめは、「授業力」です。講義の中で行われる模擬授業に積極的に取り組むことで、教材研究の重要性や子どもが考える時間を十分に確保することの大切さなどを学びました。現場では「授業力」が最も求められると考えています。模擬授業を通して、子どもの興味・関心を大切にしたい授業について考えることができました。

これらの学びを生かして、子どもの成長のための活動を企画・実行したり、地域の人々とともに子どもを支えたり、子どもの学力を高めたりしていきたいと思っています。地域のため、子どものために全力を尽くすことのできる教員になれるよう、これからも学び続けたいと思います。

4年間を通して学んだ「人と関わることの大切さ」



教育学部4年 村場 亮太
(鹿屋高等学校出身)

私は、この4年間で数多くのことを学びました。日々の授業での学びはもちろんのこと、ボランティア活動やアシスタントアドバイザーなどの経験からも多くのことを学びました。

その中で、私が最も印象に残っていることは、「人と関わることの大切さ」です。大学では、高校までとは異なり、自分たちで課題を見つけ、解決していかなければなりません。また、教員を目指す学生として、社会の模範となることも多いと感じました。ボランティア活動では、実際に子どもたちと関わる中で「伝える」ということの楽しさや難しさを実感し、アシスタントアドバイザーとして下級生と積極的にコミュニケーションをとった経験からは、信頼関係を築くことの重要性を学びました。さらに、模擬授業を行う際にも、教育学部の仲間や先生方と、授業の構成や指導案での工夫などについて繰り返し話し合い、検討をしながら、より良いものを創り上げていきました。

今後、社会に出たときにも人と関わることはとても重要になってくると思います。大学で学んだことを最大限に生かし、これからは教育者として子どもたちに人と関わることの大切さを教えていきたいです。私自身も、これからもより一層成長していけるよう、努力を続けたいです。

平成29年度 卒業論文発表会を終えて



教育学部4年 高田 真帆
(延岡高等学校出身)

私は、大学生活4年間の集大成として「理科離れ」を食い止める教材開発の視点を得ることを目指した研究を、1年かけて行ってきました。私が、「理科離れ」を食い止める教材開発にあたって、参考にしたのは「市民参加型調査」というものです。「市民参加型調査」は、大学や博物館などで行われている専門家が行う研究に、市民が参加をするというものです。例えば、セイヨウタンポポとカンサイタンポポの分布を調べる調査や漂流物についての調査などがあります。私は、この「市民参加型調査」が、児童にとって身近な題材を扱いながら、学外の専門家が参加し、教科書にはない調査ができるという点で「理科離れ」にも有効であると考え、「理科離れ」「市民参加型調査」について多くの文献を読み、整理してきました。

発表会当日は、とても緊張しましたが、自分で納得のいく発表ができたと感じています。質疑応答では、教材開発をする上での重要な視点について質問を頂いたり、研究に興味をもってもらえたことを実感できるような言葉を頂いたりしました。今回の研究で得たことは、私の将来にも生かせるものなので、これからも内容をより深め、研究を継続していけたらと考えています。他の教育学部4年生もそれぞれのテーマに沿いながらしっかりと研究をしており、たくさんの刺激を受けることのできた1日でした。

題目:「市民参加型調査から考える小学校現場での参加型調査のあり方
—『理科離れ』を食い止めるための教材開発の視点を求めて—

1月24日に、本学部初の卒業論文発表会が行われました。9時から17時過ぎまでの長丁場で、発表者はもとより、先生方もさぞお疲れになったことでしょう。どの発表も熱心に研究に取り組んだことを思わせるものでした。何事でもそうですが、熱心に取り組むほど、その経験は自分を育てます。手を抜いたものは、それだけのものしか自分にもたらしません。初めての論文で、結論が「自分で見出した新たな事実、発見」とまではいかなかったかもしれませんが、しかし、多少なりとも自分自身の考え・意見が盛り込まれたのなら、それは大きな成果です。社会に出ても、自分自身を持ち、情熱をもって物事に取り組んで行って欲しいと思います。



教育学部4年 甲斐 野乃可
(日南学園高等学校出身)

卒業論文発表会では、それぞれが1年かけて研究したことを10分間で発表しました。緊張感のある雰囲気、4年間の集大成を発揮できる場となりました。

私は、2009年に行われたPISAという国際的な学力調査のデータを二次分析し、読解力における日本の解答パターンの特徴を明らかにしました。研究では、項目反応理論やデータ分析のためのRプログラムなどを一から学び、データを分析しました。そして、卒業論文執筆に取り掛かりました。論文執筆は、想像以上に難しかったですが、先生からアドバイスを頂き、進めることができました。

発表会でのパワーポイント資料は、研究の目的から考察までのつながりやこの研究を通して示されることに注意しながら作成しました。発表の練習を重ねることで、話し方や説明の順序を変更するなど、より伝わりやすくなるように工夫しました。

卒業論文は、テーマを決め、そこから様々な文献を勉強し、データの収集・分析をするなど、長い過程があります。1年を見通した計画を立てて進めていくことが大切だと実感しました。

題目:「わが国の読解力の解答パターンの国際比較分析」

(教育学部教授 菅 邦男)

教育実習を終えて(小学校)



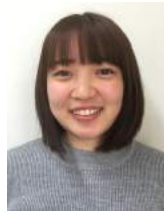
教育学部3年 那須 郁加
(都城泉ヶ丘高等学校出身)

私は教育実習を通して、改めて「児童の実態」に応じた指導の重要性を感じました。研究授業の回数を重ねていくにつれて担当クラスの児童の個性や学力差を理解し、全体に向けての投げかけや個に応じた指導が少しずつできるようになってきました。

また、指導して頂いた先生からコミュニケーションの取り方や学級経営の方法、分かりやすい授業の工夫などたくさんのことを学ばせて頂きました。

4週間の実習で、自分の知識の無さや授業技術の低さなど、多くの課題に気付くことができました。今後は、教育実習での貴重な経験を生かし、大学での勉強に励んでいきます。6か月後の採用試験に向けて課題を克服し、現役で合格を手にしたいと思います。

教育実習を終えて(幼稚園)



教育学部3年 瀬尾 礼未
(宮崎南高等学校出身)

初めての幼稚園教育実習だったので、不安や緊張がありました。先生方からの丁寧なアドバイスやご指導のおかげで無事に4週を終えることができました。

実習先の幼稚園では、様々な行事にも参加をし、たくさんのお話を学ばせて頂きました。中でも、特に心に残っていることは、先生、子どもたちと一緒に神社まで散歩をしたことです。園から神社まではかなりの距離がありましたが、子どもたちは弱音を吐かず、神社までしっかりと歩いていました。散歩の際には、途中の公園で休憩をしたり、道端で見つけた季節の植物の話をしたりと、子どもたちが無理なく楽しみながら歩くことのできる工夫がされていました。神社に着いた後には、その周辺の山を探検し、たくさんのお話を聞きました。

このように私が実習に行かせて頂いた幼稚園では、自然体験をとっても大切にしていました。4週間の実習を通して、自然とふれあうことで普段とは異なる刺激をもらえることを知りました。子どもの気持ちを考えて行動することの大切さや、日々子どもたちと過ごすには何より体力が必要であるということも学びました。とても充実した幼稚園教育実習でした。

平成30年度 教員採用試験合格支援プログラム

| | | |
|----|--|------------------------------------|
| 1年 | 教員採用試験のための特別対策講座(基礎Ⅰ) | 12講座 |
| 2年 | 教員採用試験のための特別対策講座(基礎Ⅱ) 特別対策合宿A | 12講座 平成30年9月20日～22日(2泊3日) |
| 3年 | 教員採用試験のための特別対策講座(応用Ⅰ) 特別対策合宿B 採用試験対策セミナー | 24講座 平成30年9月20日～22日(2泊3日) 2回 |
| 4年 | 教員採用試験のための特別対策講座(応用Ⅱ) 一次試験直前対策セミナー 二次試験直前対策セミナー | 12講座 各1回 |

入試広報部より

◆ オープンキャンパス

開催月 3月・7月・8月(詳細は本学HPにてご確認ください)

内容 学部説明、体験授業、卒業生・在学生体験発表、学食体験、個別相談会等

◆ 週末キャンパス見学会

MICに興味はあるがオープンキャンパスまで待てない!オープンキャンパスには都合が悪くて行けない!そんな受験生と保護者のための「週末キャンパス見学会」。

開催月 年複数回(詳細は本学HPにてご確認ください)

内容 学部説明、入試相談、AO・推薦対策講座(任意)

◆ 平日見学会

オープンキャンパス・週末見学会の他にも臨時の見学会や説明会を受け付けております。ご希望の方は事前にご連絡ください。

入試広報室 **0120-85-5931**
admissions@sky.miyazaki-mic.ac.jp

入試情報



学生募集
要項(PDF)



宮崎国際大学

国際教養学部 比較文化学科
教育学部 児童教育学科

〒899-1605 宮崎県宮崎市清武町加納丙1405番地

電話: 0985-85-5931 FAX: 0985-84-3396

ホームページ: <http://www.mic.ac.jp>



大学教育再生加速プログラム